

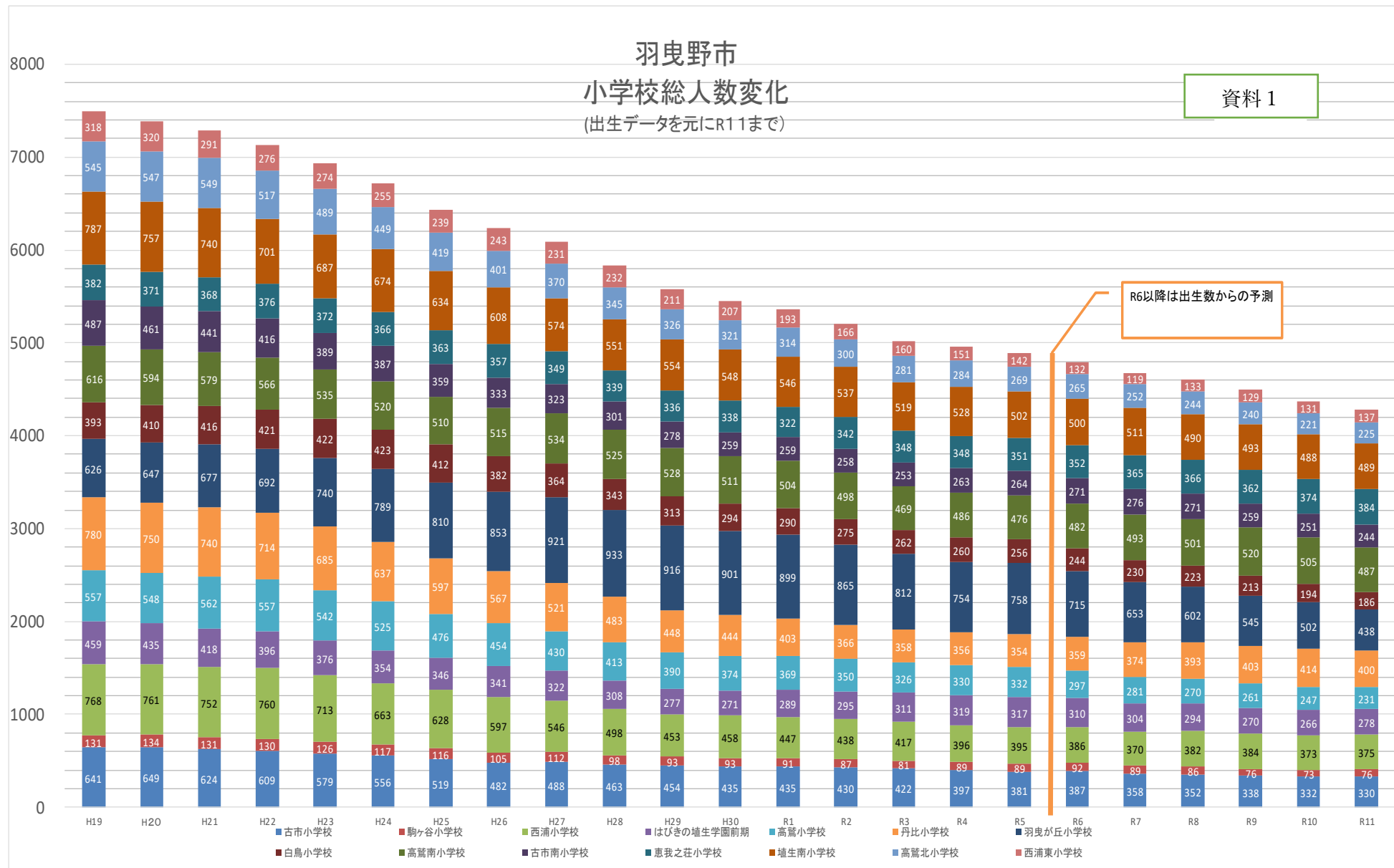
令和 6 年 教育総合会議

今後の羽曳野市の教育環境に関わる
今後の就学人数の推計について

小学校（義務教育学校前期課程を含む）

羽曳野市
小学校総人数変化
(出生データを元にR11まで)

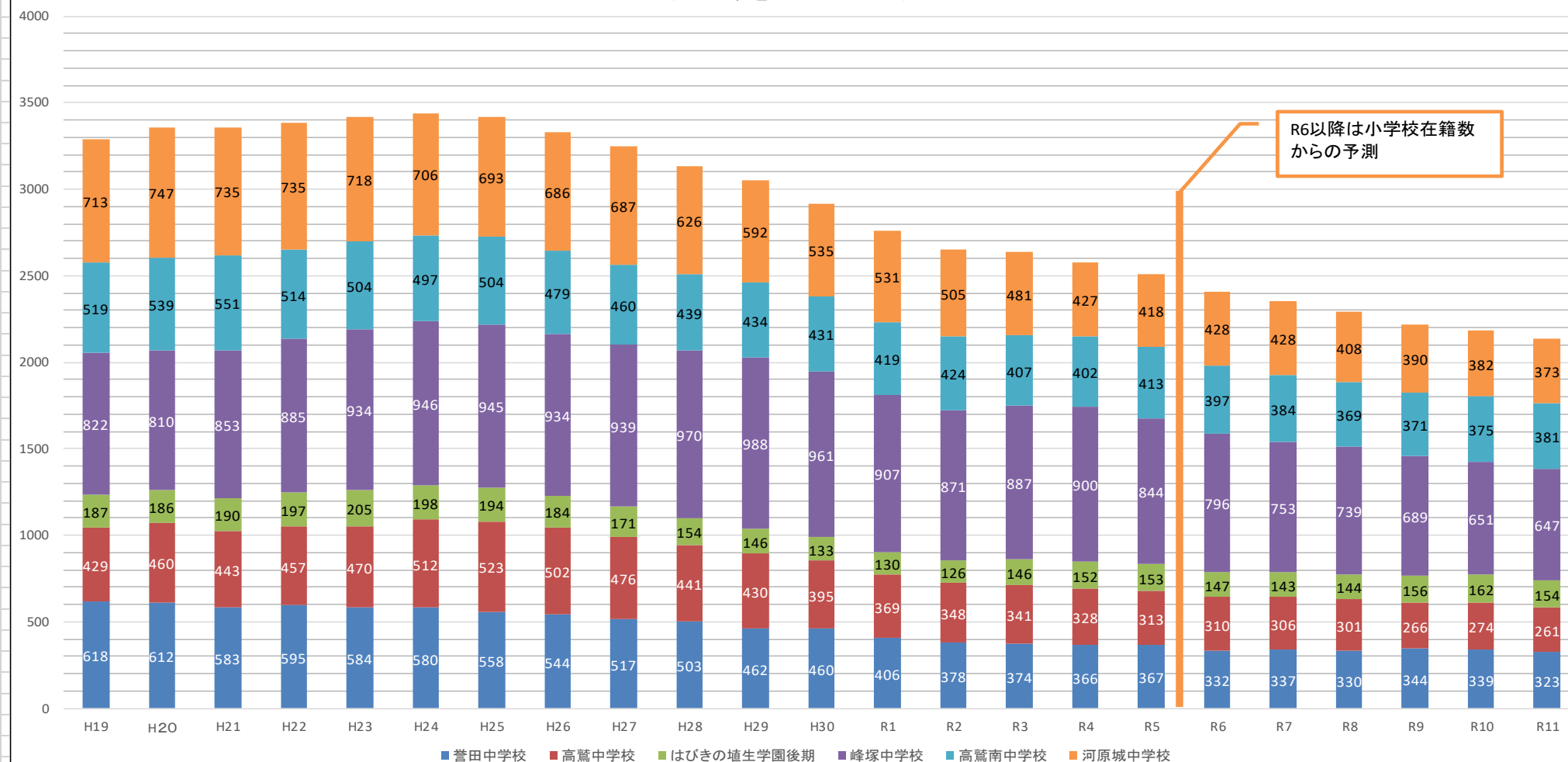
資料 1



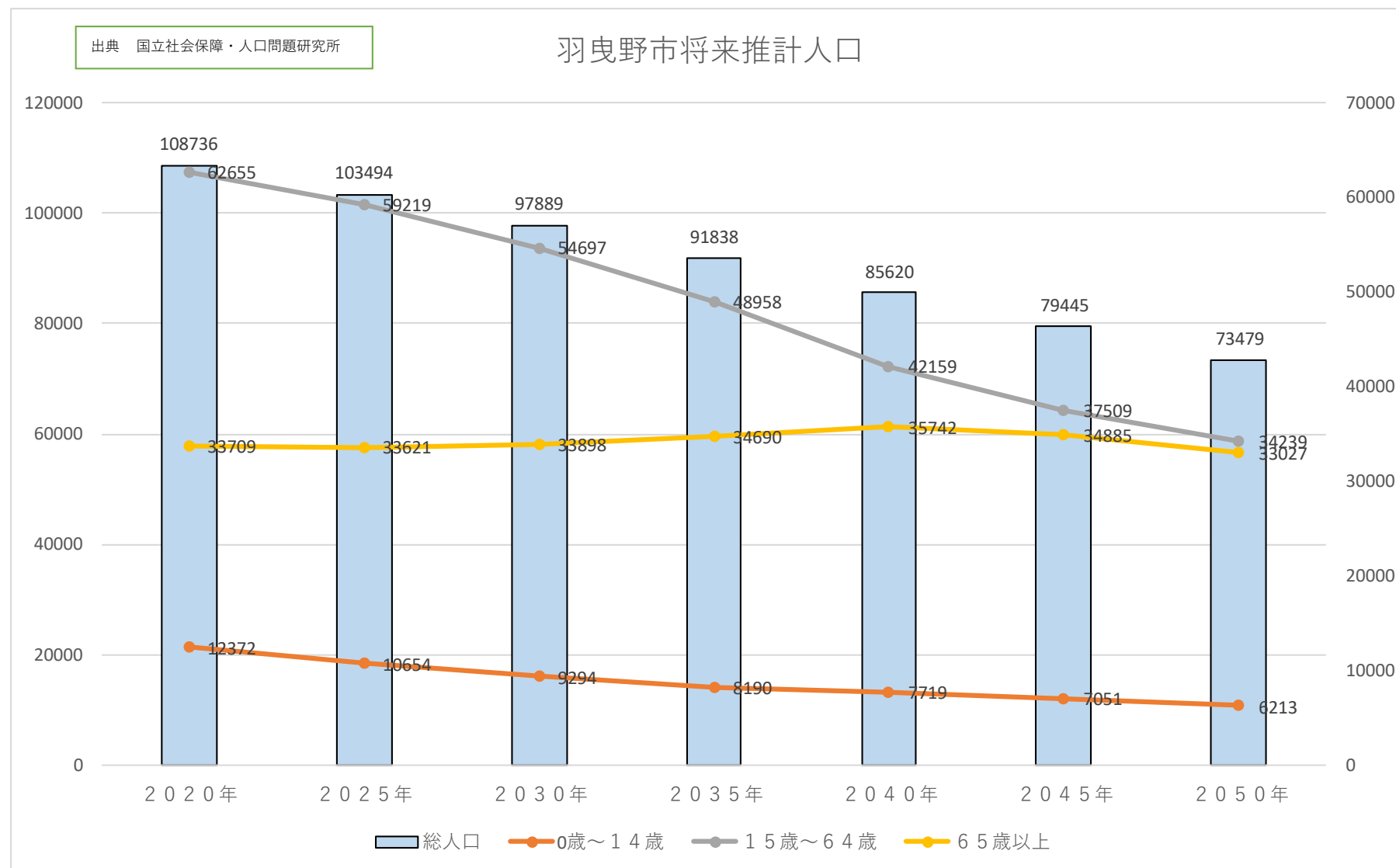
中学校（義務教育学校後期課程含む）

羽曳野市
中学校総人数変化
（出生数を元にR11まで）

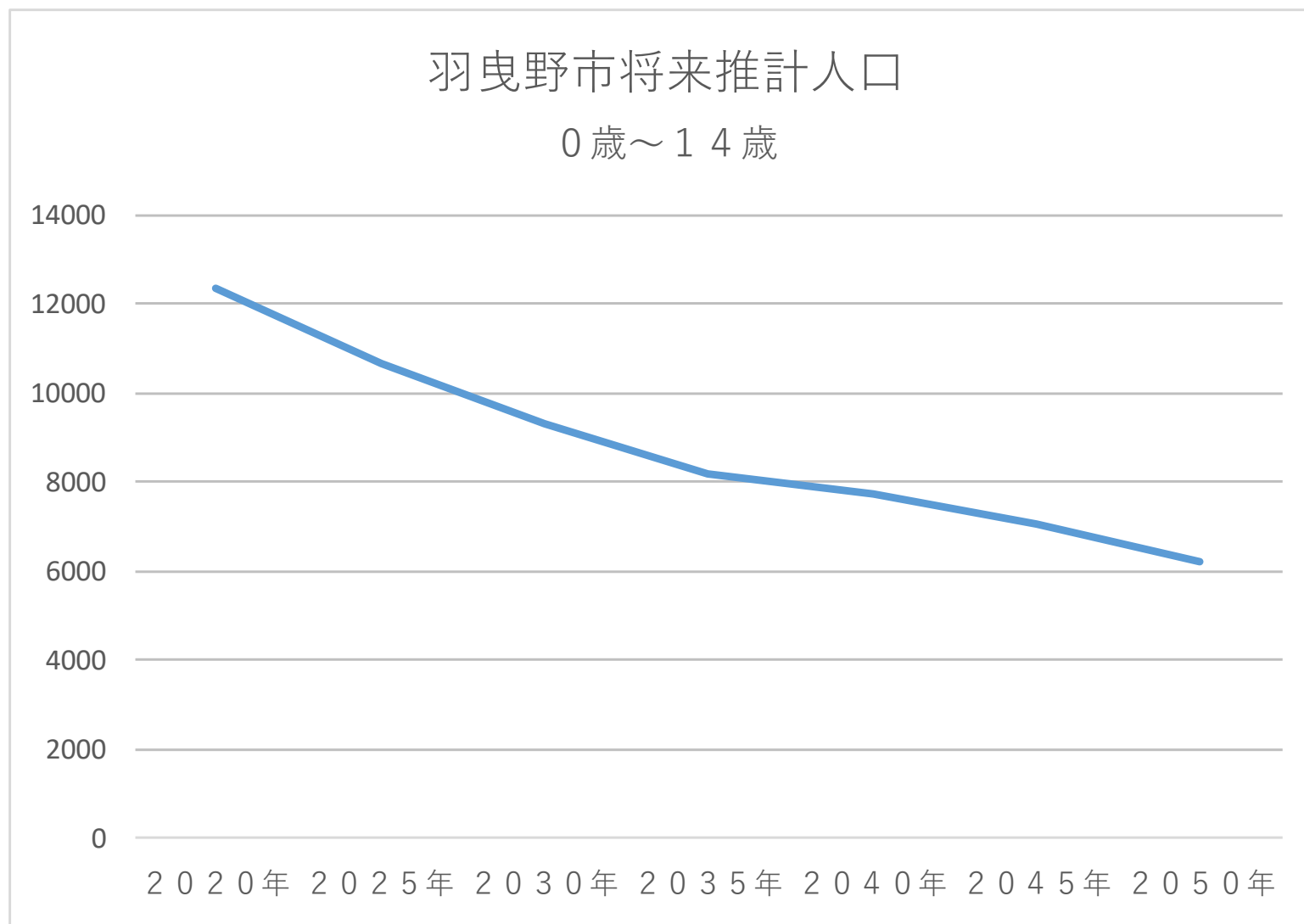
資料 2



今後の推計について



義務教育に関する 0 歳から 14 歳のグラフだけを抜き出すと
2050年にはおよそ半数になる推計になっている



この減少率を各校に単純に当てはめた場合

東圏域の学校の推計値

羽曳野市の将来推計人口の減少率からの予想児童数							
	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年
峰塚中学校	871	753	657	578	545	498	438
西浦小学校	438	370	323	284	268	244	215
白鳥小学校	275	230	201	177	166	152	134
羽曳が丘小学校	865	653	569	502	473	431	380
西浦東小学校	166	119	104	91	86	79	69
誉田中学校	378	337	294	259	244	223	196
古市小学校	430	358	312	275	259	237	208
古市南小学校	258	276	241	212	200	182	161
駒ヶ谷小学校	87	89	78	68	64	59	52

中圏域の学校の推計値

羽曳野市の将来推計人口の減少率からの予想児童数							
	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年
河原城中学校	505	427	372	328	309	282	249
埴生南小学校	537	528	460	406	382	349	307
丹比小学校	366	356	310	273	258	235	207
はびきの埴生学園 後期	126	143	125	110	103	94	83
はびきの埴生学園 前期	295	304	265	234	220	201	177
峰塚中学校	871	753	657	578	545	498	438
羽曳が丘小学校	865	653	569	502	473	431	380

西圏域の学校の推計値

羽曳野市の将来推計人口の減少率からの予想児童数							
	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年
高鷺南中学校	402	384	335	295	278	254	224
高鷺南小学校	486	493	430	379	357	326	287
恵我之荘小学校	348	365	318	280	264	241	212
高鷺中学校	328	306	267	235	221	202	178
高鷺小学校	330	281	245	216	203	186	164
高鷺北小学校	284	252	220	194	182	167	147

義務教育の目標は学校教育法 21 条に 10 項目かかげられている
その筆頭の 1 項目目にあげられているのが、

社会的活動、自主自律および協同の精神、規範意識、公正な
判断力並びに公共の精神に基づいた態度

どれも相手や集団があって、その中で育てられるものであるから、今
後の学校での子どもたちの豊かな教育のために必要な環境を整えてい
くことが重要になる。

現在の学校の配置状況について

小学校



中学校

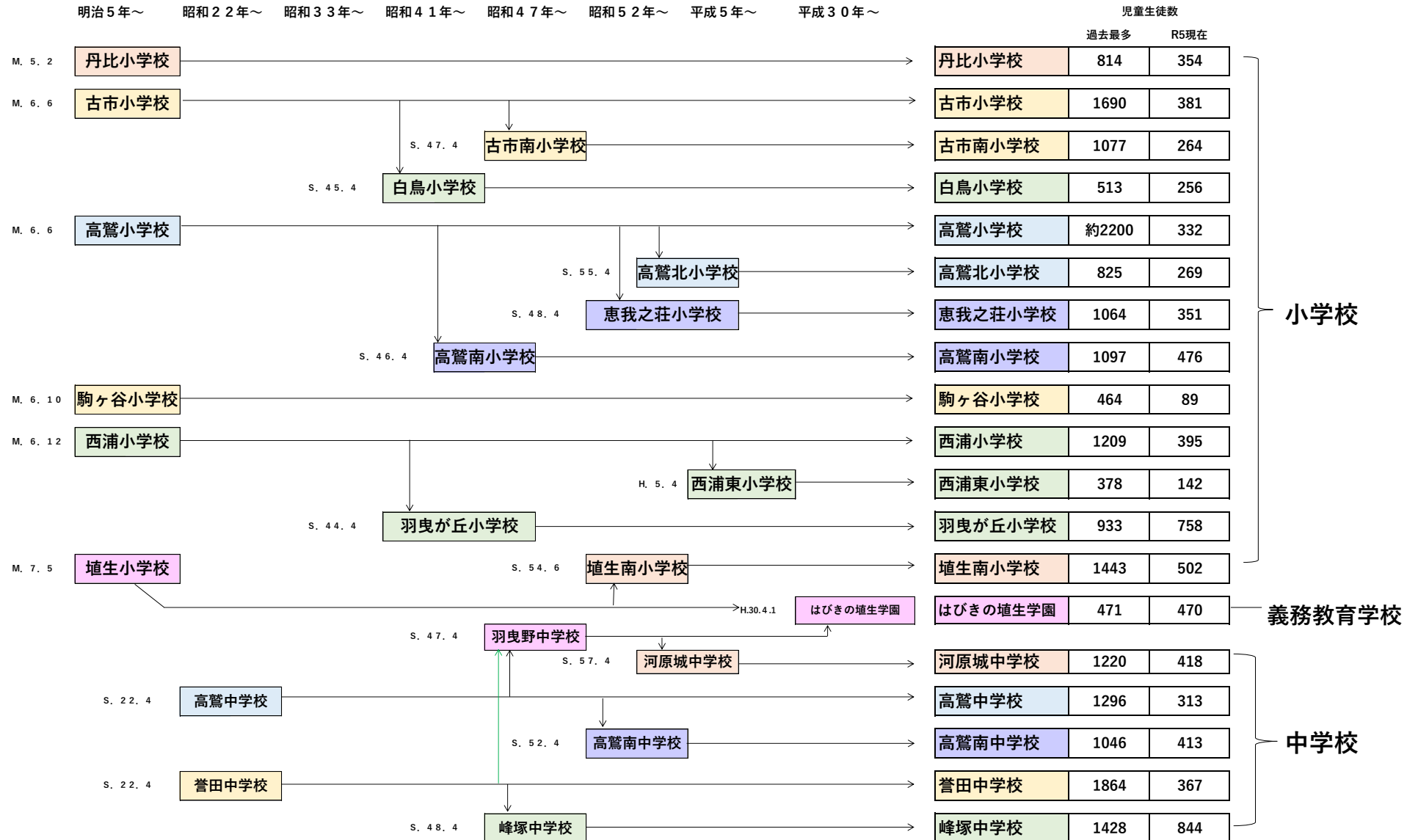


義務教育学校



羽曳野市の義務教育諸学校の沿革

○ 義務教育諸学校園の沿革



本市の義務教育諸学校は

2中6小からスタートしたが、ベビーブームでの就学人数の増加に伴い、学校数を増やしていった。

中学校 2校→6校（義務教育学校後期課程含む） 3倍

小学校 6校→14校（義務教育学校後期課程含む） 2.3倍

昭和55年前後が最も在籍者数が多かったが、今はほとんどの学校でその半数を下まっている。

次の時代の教育環境を整えるために、現在、保護者、学校関係者、学識経験者からなる審議会にて、羽曳野の子どもたちの未来のために、議論いただいている。

今後の羽曳野市の学校教育のあり方について、審議会での答申を元に未来の羽曳野の子どもたちの豊かな学び舎としての学校をどのようにしていくのかを考えていく予定です。